白山台小

主体的に表現する児童の育成

～子どもが生き生きと学ぶ問いと対話の工夫～　（３年計画の３年次）

校長　　大館　秀光

１　研究主題について

本校では、教育目標に「めあてに向かってともに学び合う子」を掲げ、校歌に謳われた「学ぶたのしさを分かちあう学校」「心とからだを鍛えあう学校」の実現を目指している。１年次の音楽科における表現力を高めるための指導研究の成果と課題を受け、２年次は主題の具現化を目指し、副題を「問いの意識をつなげる授業づくり」として、授業改善を図りながら研究を進めてきた。

昨年度の校内研究では、算数科に焦点をしぼり、児童が主体的に表現するための実践研究に取り組んだ。教師が導入のはたらきかけでしかけたり、児童に必要感のある課題設定をしたりすることによって、児童の課題解決の意欲や表現したいという気持ちを高めることができた。また、ペア・グループに留まらず対話のさせ方を工夫したり、ＩＣＴを活用したりすることによって、学び合いのよさや学習の広がりを感じることができた。

一方、研究過程において、児童の問題解決意欲を持続させることや、展開時にも問いをつなげる授業づくりについて課題が残された。そこで今年度は、３年計画の３年次として他教科へ幅をもたせ、３つのチームを組織し研究主題を実現するために共通した研究内容に取り組むこととした。昨年度の「問いをつなげる授業づくり」を継続しつつ、生き生きと学び合うための「対話」の工夫にも重点を置いた授業実践を行っていくことによって、本校児童が「わかった！できた！身についた！」を実感でき、主体的に表現する力を高めていけるものと考え、副題を設定した。

２　研究のねらい

児童が生き生きと課題解決し主体的に表現する力を高めるために、どのような指導が有効か、授業実践を通して明らかにしていく。

３　研究仮説

教師によるはたらきかけや学習課題の設定、対話の場を工夫することによって、子どもが生き生きと学ぶことができ、主体的に学び表現する児童を育てることができる。

４　研究内容

(1)　子どもの学ぶ問いをもたせるはたらきかけの工夫
　ア　教師による「しかける」場の設定・はたらきかけの工夫
　イ　自分ごととして考える立場の表明・再表明のさせ方
(2)　子どもが学び合うための手立ての工夫
　ウ　考えを深める・広げる対話のさせ方
　エ　思いや考えをつなげるファシリテーションの在り方

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	6		全体会（共通理解）
6	7		全体会（指導案作成様式）
7	4	第１回授業研究（要請訪問） ３年　１組　授業者　教諭　中野渡　正明	公開授業
9	２７	第２回授業研究 ５年　２組　授業者　教諭　新保　義成	公開授業
１１	１５	第３回授業研究 １年　２組　授業者　教諭　福士　珠未	公開授業
１１	２９		全体会（今年度の成果と課題）
1	１２		全体会（来年度の方向性①）
2	7		全体会（来年度の方向性②）

(2)一般研修

月	日	一般研修等
5	２４	「算数における１人１台端末を活用した授業づくり」 講師：総合教育センター　主任指導主事　小向　一樹
8	３０	県学習状況調査の採点・分析・考察
9	6	「校内研究における授業づくり（高学年・算数）」 講師：総合教育センター　主任指導主事　小向　一樹
１０	１１	「インクルーシブ教育の視点を取り入れた支援体制づくり」 講師：こども支援センター　指導主事　三浦　祐子
１１	1	「校内研究における授業づくり（低学年・国語）」 講師：教育指導課　主任指導主事　中村　美穂
2	１５	研修報告会

６　研究の成果

(1)　子どもに学ぶ問いをもたせるために、本文を穴あきにしたりＩＣＴを効果的に活用したりというように「しかける場」を設定したことにより、問題解決の必要感が生まれ、生き生きと課題解決に取り組むことができた。

(2)　子どもの考えをつなげられるように、教師が意図的に問い返しをしたり意見を交流する「つなぎタイム」を取り入れたりすることによって、自分と友達の考えを比較したり共有したりしながら生き生きと対話ができ、学び合うことができた。

(3)　低・中・高学年の３つのチームが、それぞれで選択した共通研究内容に取り組むことにより、各チームが主体的に研究に臨むとともに、個人の教科研究の深まりや日々の教材研究へのつながりなど、教師にとって深い学びがあった。

７　研究の課題

(1)「しかける場」を解き進む段階でも設けたり、自分事として捉えるための工夫をしたりすることを通して、子どもに選ぶ力と伝える力を付けること。

(2)　子どもたちの考えをつなぎ、さらに深めていくための教師のファシリテーションの在り方。

(3)　チーム研による研究の継続と、フィードバックの在り方。

（記入者　工藤　　佳）